

# 飯坂ロータリークラブ 週報

創立 昭和33年(1958)5月5日  
 ガバナー 佐藤正道  
 ガバナー補佐 網代智明  
 会長 石川邦俊  
 幹事 紺野容樹

情熱 行動  
 感動 共有  
 地区重点目標  
 1. DEI を取り入れた会員増強拡大  
 2. よりインパクトのある奉仕事業の実践  
 3. 活動の情報発信  
 4. ネットワークの構築  
 5. ポリオ撲滅

2022-2023年度 ◆ 例会日/木曜日 12:30 ◆ 例会場/かむろみの郷 穴原温泉 匠のこころ 吉川屋  
 RI会長 ジェニファー・ジョーンズ 事務局/〒960-0211 福島市飯坂町湯野字新湯6 (吉川屋内) ☎(024)542-2226 FAX(024)543-1433  
 ウィンザー・ローズランドRC (カナダ・オンタリオ州)

通算

4月は環境月間

## 第34回 [ 3106 ] 例会報告

令和5年(2023) 4月13日(木)

出席委員会報告

会員総数	38名
出席会員	27名
欠席会員	11名
出席率	71.05%

### 言行はこれに照らしてから 「四つのテスト」

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

◆開会点鐘 石川邦俊 会長

◆ロータリーソング [我等の生業] 川又康彦 ソングリーダー

◆四つのテストの唱和 白岩裕和 職業奉仕委員

◆お客様紹介 福島地区薬物乱用防止指導員協議会 在原 登 様

🎵 今週の誕生日 🎵🎵🎵 4月15日 鈴木 正実 会員 🎵🎵🎵

.....lunch time.....

### ◆会長の時間



本日も例会出席、誠にありがとうございます。先ほどご紹介いたしました、薬物乱用防止指導員協議会の在原様には、お忙しいところゲストスピーカーとしてお越しいただき誠にありがとうございます。私もテレビで警察密着24時というのを見て、あんなに簡単に捕まるのかなと思うくらい、警察官の方はすごいなと思って見ておりますが、様々な薬があるようですので、その辺もお話をさせていただけるのではないかと考えております。明日から京都に旅行に出発される方々、なるべく、皆さんの迷惑にならないように行ってきたいと思っておりますので、よろしく願います。また、4月9日の福島競馬場への職場訪問は、出席できずに申し訳ございません。皆さん、楽しい時間を過ごしていただけたのかなと思っております。今日の朝9時半より、観光協会さんの会員として、花ももの里のお手伝いがありましたが、第二の花見山だと高倉君が新聞にも載っていたと言っておりました。みんなで協力して、みんなで応援して、素晴らしい花ももの里にしたいなと思っております。真也さんの説明で、なるほど、こういう花もあったのだなということ聞きながら、案内をさせていただきました。手入れも行き届いており、本当に素晴らしいと思いました。今度、6月10日にあります摘蕾作業では、実を落とす仕事をして、来年きれいな花が咲くことを祈りながら、お手伝いをしたいと思っております。その時は、皆さんにまたご協力をお願いいたします。



### ◆幹事報告 紺野容樹 幹事

A. 月信 「ロータリーの友」4月号 「ガバナー月信」4月号 No.10

B. 来信

①ガバナー 佐藤正道 氏より

「2022-23年度地区大会決算報告書承認の件に関するクラブ投票について」

「2023-24年度賦課金・地区資金予算(案)の承認に関するクラブの投票について」

### ◆親睦旅行についての報告 油井明則 委員長

親睦活動委員会の方から、再度確認という形で、もう一度お知らせをしたいと思えます。まず、集合時間は午前6時に福島駅西口の改札にご集合をお願いいたします。出発は6時33分になります。朝食ですが、朝早いので私の方で準備をさせていただきます。飲み物は6時から売店がオープンしますので、各自ご用意をいただきたいと思えます。また、今回は歩くことが多いと考えられますので、それなりの服装とシューズをお願いいたします。それと2日目はどうも雨のような感じがいたしますので、傘のご準備をお願いいたします。行程表ですが、字を大きくするように添乗員さんをお願いしておきました。明日、駅に着きましたら再度お渡しいたしますので、ご確認をお願いいたします。明日から三日間よろしく願います。それではいってまいります。



### ◆スマイリングBOX 西脇徳幸 委員 【合計34s】

- 佐藤喜市郎 会員 5s 在原先生をゲストスピーチにお迎えして よろしく願致します。
- 安斎 忠作 会員 5s 本日は花桃の里案内ありがとうございます。
- 油井 明則 会員 5s 在原先生をお迎えして。明日から親睦旅行で京都へ行ってまいります。よろしく願います。
- 石川 邦俊 会員 3s 在原さんスピーチ宜しく願致します。明日から旅行宜しく。
- 紺野 容樹 会員 3s ゲストスピーカーに在原様をおむかえて
- 佐藤 真也 会員 3s ゲストに在原登様をお迎えして 花ももの里ボランティア活動ご協力ありがとうございました。・京都楽しみにしております。宜しく願致します。
- 千葉 政行 会員 3s 在原先生をお迎えして。京都旅行を楽しんで下さい。
- 堀切 孝敏 会員 3s 在原先生をお迎えして
- 斎藤 孝裕 会員 3s 在原先生をお迎えして
- 伊藤 俊憲 会員 1s どうとう還暦になりました。今後はシニア社員として頑張ります。また、妻への誕生日プレゼントありがとうございます。



ゲストスピーカーの紹介 佐藤喜市郎会員  
 『まずはお引き受けいただいた在原先生に御礼を申し上げます。また、皆様の「ダメ。ゼッタイ。」普及運動へのご協力に感謝申し上げます』

## ◆ゲストスピーチ

## 福島地区薬物乱用防止指導員協議会 在原 登 様



ロータリーの皆様方には、我々指導員の活動にご理解とご協力、そして、多大なるご寄付をいただきましてありがとうございます。ここで私の職歴について、少し触れたいと思います。私は堀切孝敏先輩の後輩で薬剤師です。7年前まで、県庁に37年間勤めておりました。薬務や医務、生活衛生、感染症対策、また、温泉の方も担当しておりました。本日もお話しをする薬物乱用については、一番長く50年以上従事しており、啓発、教育等を行っております。皆様、麻薬Gメンと聞いたことがあると思いますが、私も若い頃、警察と同じように警察手帳をいただいて、ピストル所持が認められ、麻薬取締員として捜査をしておりました。また、ちょうど薬務課長の時は、危険ドラッグが蔓延しており、「合法ハーブ」や「合法ドラッグ」と言っており、実際に福島県内でも販売していた店舗がありました。私が薬務課にいる前から四者協議会（警察・検察庁・東北麻取・厚生局）というものがあり、その四者の合同立ち入りで、その店舗を捜査しました。警察の方でも、全国初でしたが、販売店の関係者を逮捕し、検挙したというようなことなど、県内では一早く、危険ドラッグの蔓延を阻止することができました。今日のお話ですが、まず始めに、薬物乱用の実態と現在の課題についてのお話をいたします。まずは「命のゼミナール」というパンフレットをご覧ください。そこに現在蔓延している薬物が載っております。これらの薬物は全て脳に作用し、興奮したり、幻覚を起こしたりします。有名なものでは覚せい剤や大麻、危険ドラッグやMDMA等があります。実際に最近はどうなのかと言いますと、一番多いのは覚せい剤で全体の56.4%。2番目に多いのが大麻で全体の39.6%。実際に年齢層を見ると20歳未満から増えており、若年層の増加が顕著になっています。初犯が78.1%で、好奇心や友達に誘われてというようなことです。次に全国の精神科医療機関における薬物関連精神疾患の実態調査ということですが、どんな薬物で精神傷病をきたして治療を受けているかということです。実際に見ていただくと、2018年ですが、違法薬物ばかりではなく、身近な薬品を原因とする薬物依存が増加しているという結果が出ています。2020年だと、市販薬や処方薬の方が多くなっています。年代別に見ますと、覚醒剤は30代40代50代で、年齢が高くなっていくに従って、睡眠薬や合法麻薬の乱用が目立ってきます。年齢が低くなれば市販薬、咳止めや風邪薬などの乱用が目立っています。これは通常の用法用量を無視して、十数倍の量を一気にとる「オーバードーズ」と言いますが、この「オーバードーズ」とは、精神的な苦痛を和らげようと処方した薬や市販薬などを多量に摂取することです。これは内臓に大きな負担がかかって、機能の低下を含めた、悪影響が起こる可能性がある他、止められなくなってしまうと、離脱することが難しく、離脱症状というものが見れる場合があります。薬物の中止や薬の減量に伴って、悪感とか、手の震え、吐き気、嘔吐、イライラ、不安、幻覚、興奮など、実際にそういった症状が現れます。ただ、実際に彼らは様々な精神的苦痛を抱えています。乱用の要因として、薬を飲むなどと言っても、全然解決にはなりません。精神センターの松本先生が市販薬を乱用する実態ということで書いています。ちょっと簡単に読みますと『乱用者の多くの実態は、様々な生きづらさを抱えた10代の若者。心理的苦痛を率直に親や家族に相談することができず、自分一人で抱え込んでいる人たち。目的なく使用して、かつ気分をまかせて、意欲を高めたり、不安を分散させたりする。そして、感情的苦痛に圧迫されて、どうしようもなくなって、薬の力にしか依存できない。安心して人に依存できない子達で、実際は快楽や享楽のために使っているのではない。その苦痛から逃れるために、一時的に使っている。それが悪循環を起こしている』とあります。さらには、本当に真面目でお利口な子のケースが多いのです。では、実際にどうすれば依存から回復できるのかということになりますが、こういった薬品や市販薬であれば、ある程度は回復が可能です。ただ、先ほども言いましたように、行為そのものを止めるばかりではなくて、背景にあるものを止めなくてはなりません。依存しなくても済む方法を考えなくてはならない。まずは辛い気持ちを誰かに相談する。相談窓口で相談するということが第一歩になります。また、親や家族や親戚等に相談する。しかし、家族が抱えて外に出せない場合があります。全部自分たちで解決しようとする、かえって悪化する可能性があります。ですから、家族を正しい支援先につなげることが回復のカギとなります。精神保健福祉センターがありますが、そこでは家族からの相談なども受けておりますし、お話なども聞いて、対応することも可能です。次に簡単に知識について、実際に問題になっているのは、大麻はタバコよりも安全だという印象がありますが、実際はやる気が無くなったり、1回でも乱用になります。影響もあります。ひらがなしか書けないなど、そういったことも起きます。危険ドラッグの一番の大きな問題は、私たちの脳を傷つけることです。私たちの脳はすごいスピードで情報を収集して、体の隅々まで伝達する優れた機能を持っています。脳の働きによって、私たちの行動がコントロールされています。1番先に壊されるのが性格です。人間性が破壊されていきます。感情のコントロールができず、薬物ファーストになります。何を差し置いても薬物が優先になり、そのためには何をしたらいいという、最終的にはそういう考えになります。ですので、人を傷つけても、人を殺しても、薬物が一番だという考え方になってしまいます。薬物を乱用する人は耐性ができて、効かなくなってきましたし、それは一生戻ることはありません。回復するためには、厳しい専門の治療と本人の多大な努力が必要になります。薬物を使いたいという気持ち、一生その気持ちと戦い続けなければなりません。それでも、変化した脳は元に戻ることはありません。フラッシュバックということがあって、1度幻覚や幻聴が現れてしまえば、頭は1回薬を止めても、ちょっとした刺激やストレスなどで、そういった幻覚など、必ず感覚が戻ってきます。実際に個人の問題ではありません。先ほど言ったように、乱用による性格の変化、生活習慣、社会、周りの人たちに重大な影響を与えます。いろんな形の変化が現れて、全てを無くしてしまいます。そして、いろんな方に迷惑をかけることになっていきます。まずは自分を守るために、甘い言葉や誘いに乗らない。それが1番大切です。昔、覚せい剤を「シャブ」と言っていました。「シャブ」というのは、骨の髄までしゃぶるからシャブなのです。悩んだ時は必ず相談ということで、皆さんのところにもパンフレットをお渡ししましたが、福島県内にも薬物の相談窓口があります。秘密は厳守しますので、安心してご相談ください。簡単に今どんな運動しているかをご説明いたします。我々は指導員をしています。40年くらい前に副知事の委嘱を受けて、地域に根ざした活動をしています。啓発活動として薬物の講師をし、薬物乱用根絶を目指して、活動しています。皆様ご存知の「ダメ。ゼッタイ。」普及運動をしています。これは30年前に官民が一体となってスタートした活動です。また、国連が定めた「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」ですが、これは1978年6月26日に国際麻薬会議が開かれ、そこで世界中をあげて撲滅活動を行っていかうと、その日を撲滅デーにしました。また、国連支援募金をしています。国連支援募金では、福島県の成績は皆様のご協力、毎年3本の指に入っております。また、10月には麻薬、覚醒剤、大麻防止として、各ブロックで大会が開かれています。これは私が担当したのですが、高校生を中心に、高校生から高校生へ、同じ世代に訴えるようなプログラムということで、千何百人を集めて活動を行っています。指導員は裏方として協力をしています。また、薬物乱用防止の講師として、指導員がやっております。自生大麻芥子撲滅運動ということでは、防犯予防の観点から大麻、芥子が自生している山間部で、よく通報が入りますので、実際行って確認します。5月から6月に大きくなり見つけやすいということで、こういった運動が行われます。薬物乱用防止の啓発を行い、薬物乱用を許さないということで、そういった事業を行い、薬物乱用者に向けて、活動を行っておりますので、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。